

岡崎市社会資本整備総合交付金評価委員会議事録

1 日時

令和6年9月18日（水）10:20～

2 場所

岡崎市役所 西庁舎7階 704号室
（オンライン会議にて開催）

3 評価委員

出席者

委員長：名城大学教授	鈴木 温 氏
委員：名古屋大学准教授	井料 美帆 氏
委員：名古屋大学准教授	中井 健太郎 氏
委員：名古屋市立大学准教授	三浦 哲司 氏

4 事務局

土木建設部建設企画課長	村井 宣雄
土木建設部建設企画課係長	平岩 美佳
土木建設部建設企画課主査	望月 雅由
土木建設部建設企画課事務員	河合 紫織
総合政策部地域創生課係長	山本 宏憲
総合政策部地域創生課主査	長岡 拓也
総合政策部地域創生課主査	杉野 晃大

5 傍聴人

なし

6 委員会次第

(1) 開会

委員長選任

(2) 議事

地域連携道路事業「スマート IC アクセス 市道岡崎阿知和スマートインター線」事業再評価

(3) 閉会

7 配布資料

- ・事業説明資料

8 会議要旨

- (1) 本委員会は、「岡崎市附属機関等の会議の公開に関する要領」第2条の規定により、公開となることを説明
- (2) 委員長の選出、鈴木委員を委員長に選出
- (3) 議事（事務局説明、質疑応答）

9 議事内容

鈴木委員長	地域連携道路事業「スマート IC アクセス 市道岡崎阿知和スマートインター線」事業再評価について、事務局から説明をお願いします。
事務局	（地域連携道路事業「スマート IC アクセス 市道岡崎阿知和スマートインター線」事業再評価について説明）
鈴木委員長	事務局の説明事項でご意見等ありましたら、ご発言をお願いします。
三浦委員	道路が新しく整備されることに対して、騒音や振動など住環境の悪化を危惧する声が地元住民から寄せられていないかお聞かせください。
事務局	当該道路は、集落から離れた山林や農地を買収して整備することから、地元住民から車両の走行による騒音や振動などを懸念する意見は寄せられておりません。
三浦委員	スマートインターチェンジの供用後、時間帯により交通量が変化する見通しがあるかお聞かせください。
事務局	スマートインターチェンジ供用後の時間帯による交通量の変化につきましては、今回の事業再評価の中で確認しておりません。
三浦委員	右折待ちで渋滞する事象をよく目にしますが、新しく道路を整備することに伴い、右折専用信号機を新たに設ける計画はあるのかお聞かせください。
事務局	道路の実施計画段階において交通を管轄する公安委員会からの意見を聴取していますが、新たに右折専用信号機を設置する予定はございません。
井料委員	スマートインターチェンジの新設に伴いアクセス道路を整備することは、スマートインターチェンジの有効性を最大限発揮するために必要不可欠であり、重要性は十分に認められるものである。

井料委員	新規採択時と比較して費用対効果分析の値が大きくなっているが、社会状況の変化など便益が増加した要因をお聞かせください。
事務局	便益額が大きくなった要因は、費用対効果分析の前提となっている交通量推計の結果が大きくなったことが挙げられます。交通量推計に用いる道路交通センサスペースのOD（自動車起終点）が新規採択時よりも増加していることに加えて、阿知和地区工業団地の宅地分譲面積拡大による発生集中交通量の増加により、便益算定対象路線の将来交通量が大きくなっており、便益の算定結果に影響を与えています。
中井委員	工事や工事用車両の走行に起因する粉塵や渋滞など、地元住民とのトラブルを未然に防ぐために工事の内容を説明する機会を設けているのかお聞かせください。
事務局	地元住民へ工事情報を提供するためのチラシを作成し町内会経由で配布しているほか、必要に応じて説明会の開催や個別訪問にて工事に対する理解促進を図りながら進めております。
中井委員	土工事の進捗に伴い、当初想定していなかった自然由来のひ素や鉛などの重金属等を含む土壌や岩石に遭遇し適切な対応が求められることがあるが、工事の進捗に影響を与えていることが無いのかお聞かせください。
事務局	矢作川沿岸水質保全対策協議会の指導の下で汚濁防止対策を講じながら事業を進めており、周辺関連工事を含めて現時点で周辺環境に影響を及ぼすような土壌や岩石は確認されておりません。
中井委員	工事により発生する残土の処理についてお聞かせください。
事務局	同一現場内での有効利用のほか、周辺関連工事と工事間利用を図ることで発生土の相互有効利用に努めております。
鈴木委員長	残事業の費用対効果分析は、再評価時点までに発生した既投資分のコストや既発現便益を考慮せず、事業を継続した場合に今後追加的に必要になる事業費と追加的に発生する便益のみを対象とすることで、事業継続による投資効率性を評価するものである。既発現便益を考慮する必要のない今回のケースにおいては残事業の投資効率性を評価する意味はないように思われますが、いかがでしょうか。
事務局	ご指摘のとおり道路整備に伴う効果が再評価時点で発現していない今回のケースにおきましては、残事業の費用対効果分析結果が再評価年度以降の残事業費と総便益の比により算出することになるため、事業全体の費用対効果分析結果だけで評価すべきであり、

	評価指標としては適当ではありませんが、参考値として算出しております。
--	------------------------------------

10 結果

今回審議された再評価案が妥当であることを判断する旨、全委員一致で採決された。